

2012年 11月 16日教授会、特任教員の不受理に関する部分の録音反訳書

1	井形	えっとあの一、--- 2項目なんです、あの一、ちょっと私のほうからですね、申し上げます。え一と実はですね。あの一、今お配りされている文書ですが、 特任教員 の ですね、経営学部につきましては不受理という結果に終わりました。 それで---
2	吉井	ちょっとすみません。発言させてください。
3	井形	はい。
4	吉井	あの一、ちょっと立って言わせてもらおうね。今、不受理ということでそれはあの一、それで進められるのは、あの一、あれなんですけども、一応ね、 私に対して説明されている内容が、え一、非常に、え一、不適切な進め方でありました。 それで、あの一、 お配りしましたプリントの2ページを見ていただきたいんですけども、え一、二宮先生の時はわずか2行で何も無かったような状況です。 んで、それから私に対して説明されたのは3ページ目、 特任拒否理由 ということで、え一、6項目、でいろいろとこう説明されてきました。で、その内容というのが、 全く、その、不適切な内容です。 で一、 どうということかと言いますと、今、井形さんが結論を出されましたけれども、その結論とは別にね、どういう状況であったのかというのをまず報告をしたいと思います。 で、 1番目には何をおっしゃったのかという、え一、2部科目としておかれている情報ネットワーク論Ⅰ、Ⅱと情報経営論、バリューエンジニアリング、演習Ⅰは2部科目として存在しないという発言でした。 間違いないですね。で、それについて、え一、
5	井形	えっと、先生、
6	吉井	はいはい、
7	井形	一寸申し訳ないですが、
8	吉井	はいはい、
9	井形	これは私と先生との協議で
10	吉井	ちょっと待ってくれ、あなたとの協議とはいえ
11	井形	この場で、先生、
12	吉井	この教授会でもって議論も何もせずに、ね、決めていくちゅーのが問題じゃないですか。
13	北村	あえておっしゃるんだしたら、ちょっと私に発言させてください。
14	吉井	はい。
15	北村	えっと、特に出されているので前の部分はカリキュラム委員会の判断に係わる部分ですから私よりはカリキュラム委員長ですけども一番最後の、最後じゃない、最後から、裏から2枚目、皆さんご覧ください。こういうものが配られている、
16	吉井	あなたね
17	北村	いや、違うんです。申し上げたいんだ。
18	吉井	ああ、どうぞ、もう何回も聞いとるから言うてください。
19	井形	はい、あの一、
20	北村	皆さん、ご覧ください。ちょっとこれだけ
21	井形	はい
22	北村	私と樋口氏の名誉に係わることなので、樋口さん、間違っていたら訂正してください。ここにご覧いただいている2本のメールのコピーがあります。上のほうは2003年の2月25日になっています。下の私から吉井さん宛のメールは2003年の3月18日のメールになっています。この時期はという時期であったか、皆さん、その頃おられた方は覚えてられると思いますけども、経営学部2部廃止論と2部存続論という2つがあつてせめぎあいしながら存続することを決めて新カリキュラムのもとで担当者を決めて行くという経過でした。当時、私は学部長で樋口氏がカリキュラム委員長で本当に樋口氏は苦労していました。そして、留学されていた吉井さんとメールで樋口氏は何度もやりとりをしていました。この2月25日という日付と私の3月18日のメールという日付の間、ちょっと日があきすぎていると思いませんか。
23	吉井	あの一、
24	北村	で、
25	吉井	ま、先言うて
26	北村	それで、ここで、私のこのメールで2部科目の辞退という意思表示がないにもかかわらず一方的な通知で海外からは対応できずこのような行為を抑制するにも配布したというふうなことが書かれていますが、この間、吉井さん、質問します。
27	吉井	どうぞ
28	北村	3月の間に他にメールのやりとりはありませんでしたか。
29	吉井	あの一、あの一、あなたのメールはわからないんですけども、え一、この紙に出すのは仰山その中の流れを出すわけにいかないでしょ。ですから、ポイントだけを出したんです。
30	北村	はい。ポイントは自分が納得していないのに科目を取り上げたという点にある訳ですね。

31	吉井	その通りですよ。私はノーとは言ってませんよ。
32	北村	3月7日に樋口氏と貴方の間にメール交換があります。それはお持ちじゃないんですか。
33	吉井	メール出してくださいな。私にガタガタ言う前に文書で出してくださいな。あなたは、
34	吉井	ちょっと待ってくれ。あなたはいつも言葉で言うてモノでは残すなと言うじゃないですか。
35	北村	いやいや違う。
36	吉井	文書で出したらいいじゃないですか。
37	北村	発言をしています。
38	吉井	文書で出してくれ。
39	北村	3月7日のメール交換をご存知ないんですか。
40	吉井	文書を出してくれ。
41	北村	文書じゃなくて
42	吉井	文書を出してください。文書を出してください。
43	北村	3月7日のメールがあり、
44	吉井	文書を出してください。
45	北村	私のメールを記録されているんだけど、3月7日の樋口氏とあなたの交換メールはお持ちじゃないんですか。
46	吉井	文書を出してくださいと言っているんですよ。
47	北村	お持ちなのかお持ちでないのかということを聞いているんです。
48	吉井	あのね、そ
49	北村	あえて隠しているのか、忘れていいのかということを聞いているんです。
50	北村	3月7日のメールはご存知ないんですか。
51	吉井	そんなことを追求する前に文書を出してください。
52	北村	それはポイントだからです。
53	吉井	あなたにとってポイントかもしれないけれど私にとっては関係ないことですよ。
54	北村	私達執行部があなたの科目を取り上げたといえいと言っている訳でしょ。
55	北村	質問は単純なんです。3月7日のメールはご存知なんですか。
56	吉井	だから、あなたは文書を私に出せばいいじゃないですか。
57	吉井	文書を出したらどうですか。
58	北村	聞いているんです。
59	吉井	文書を出してください。
60	北村	ご存知だけど隠したんですね。
61	吉井	私は隠すというふうなことをやってません。
62	井形	ちょっと、先生、この文書に関しては私へお返してください、先生方。何故かと言いますと
63	北村	私と樋口氏に対する
64	井形	はい
65	吉井	名誉毀損で訴えたらいいじゃないですか。
66	北村	何で訴えるの、そんな面倒くさいことできん。
67	吉井	やってくださいよ。私、名誉毀損で訴えられているんだわ。
68	井形	今から執行部2人が回収に参ります
69	吉井	ちょっと待ってくれ。
70	井形	はい
71	吉井	一寸待ってくれよ。 こういう情報というのはいろんな意味で意思決定する時に情報共有したうえでね、 それで私が特任に相応しくないということであれば相応しくないということで認められたらいい訳だわ。 だから、それについては何も文句を言おうとは思っていない訳。
72	井形	先生、そんな話はもう終わってますよ。
73	吉井	だってさ、
74	井形	私と先生との間で
75	吉井	私と先生というけれども
76	井形	はい
77	吉井	こういうふうな内容でね、あなた合意したでしょとか言うのはおかしいじゃないですか。
78	井形	合意したでしょとか言ってません。私
79	吉井	全然間違った情報で話を進めている訳ですよ。
80	井形	間違ってます。
81	吉井	間違っているじゃないですか。
82	井形	間違ってます。どこが間違っ、あの一、もういいです。

83	北村	間違ってます。この情報は間違ってます。
84	井形	あのね、
85	北村	私と樋口氏に対する、--- が間違ってます。
86	井形	あの、先生、ちょちょっと、あの、
87	吉井	情報が間違ってます。
88	井形	あのね、この中身はね、私と吉井先生のメールのやりとりがございます。それから、今、先生、ちょっと、申します。私、それ以外に先生に対してメールのやりとり、これだけありますよ。わかりますか。
89	吉井	あのね、ページさ、全部配るわけにいかないじゃないですか。
90	井形	それでね、今、ちょっと北村先生からもあったように、ま、都合のよいとこだけ出されて、ま、ま、これもあります。そういうことは。
91	井形	それでね、先生、話としては先生、特任にするということに関してはもう決着がついてしまっているんです。ということで、私は、
92	吉井	ちょっと待ってくれ。
93	井形	いやいや、何ですか。山田先生、何かありますか。
94	山田	その点では、僕、ちょっと、さっき聞いてもう一度説明してほしいのは、え、不受理とは何かということです。
95	井形	はい、はい、
96	山田	不受理となったというのは何処の決定なんですか。
97	井形	学長の決定でございます。
98	山田	学長が不受理にしたと、その理由は何なんでしょう。
99	井形	はい、
100	山田	その理由は何なんでしょう
101	井形	私と吉井先生との間の協議が成立しなかったということ
102	山田	どういう協議が
103	井形	えー、つまり、特任教員として科目をもっていただくということに関しては、あの一、あの、私は承諾しがたい、と。ま、私といままでも私一人じゃないんですが、あの、カリキュラム委員会の見解で承諾しがたいと
104	山田	つまり、学部長が吉井先生が、えー、科目を特任としてもつのが承諾しないと
105	井形	はいはい、
106	山田	だから、あの一、学長のほうの、これ、あの、特任教員の何か委員会ですよね、
107	井形	はい
108	山田	そこへ受け取る書類になってないという意味ですか。
109	井形	そうです、そうです、
110	吉井	あ、ごめん、これの2ページの真中見てください。その中で書かれているのがハッキリわかります。
111	吉井	赤いところで、徳永学長が過去の事例においても、えー、推薦委員会が、えー、書類上の不備がある候補者の受理はしておらず、えー、当然、同委員会の開催も不可能であるという旨の回答がなされました。だから、このことをおっしゃっているのですが、これは私が記入ミスをしているところが1つあるということが1つ、で、もう1つは、記入ミスというのはその一演習、演習、いや、これはあなたの文章ですよ
112	井形	はい
113	吉井	あなたが今説明したのとちょっと意味が違うからね。
114	北村	ちょっと
115	吉井	意味が違うから、僕がね、
116	北村	来年度の再雇用の審査に係わる問題ですから
117	井形	はい
118	北村	山田さんの質問はよいとしても、あの一、ご本人がおられるところでやるべき問題ではないと思います。これが1つ。
119	井形	はい
120	北村	それから繰り返して申し上げますけれど、3月7日に私のほうからお断りしますというメールがあってそれに対する返信が私の3月18日のメールなんです。で、こういうことを隠しながら今回だけではなくて今回はここで配られた、あるいは、ま、他の方々にメールで配られたとなってますけど、2005年には理事会で調査委員会ができてこの問題について学長と事務局長と当時の総務担当理事の調査委員会ができてそれも調査されたうえであなたに文章の回収の命令が出されて回収されたんじゃないですか。
121	吉井	一寸待ってくれ。
122	北村	それを改めてまた再び同じことを繰り返されるんですか。
123	吉井	あのね、
124	北村	繰り返されているんですか。

125	吉井	あなたは理事という立場から言われていると思うんだけど
126	北村	いや違います。
127	吉井	ちょちょっと待ってくれ。
128	吉井	発、発、発言させてくれ。
129	北村	そのうえでもう一度いや資料をご覧なさい。
130	吉井	あのね
131	北村	2003年の6月6日の教授会議事録にあなた自身がもう来年から持たないんだという発言をされているんです。私のメールをご覧いただいたらわかりますけれど、2部科目の新科目をお持ちにならないことは樋口カリキュラム委員長とあなたのお話のなかで私、私のほうからお断りするという言葉があったうえで、
132	吉井	一寸待って、
133	北村	決まったにもかかわらず、私はあなたの担当科目を4科目に持ち上げなければならないのでここにあるメールにあるように旧科目名でそのままお持ちくださいと、2、3年のうちに調整しましょうというふうに皆さんのお読みになっている --- なっているんです。
134		あの一、
135	北村	にもかかわらず、あなたは帰ってきた2003年6月6日の教授会でもう私は来年から2部担当しないから、あの、貼り付けしないでくれ、貼り付けの問題がなんで問題になったのかというビジネス法学科を新設する時に誰をビジネス法学科に、誰を2部へ、誰を経営学科に貼り付けなければならなかったんです。それで、貼り付け来年からしないでくれとおっしゃって自ら2部から撤退されたんです。それを今に到るまでこんなことを10年も前、全然関係のない人たちが殆んどになったところで私の評判を落とそうとしているんでしょう。私の評判を落とそうとしているんでしょう。違うんですか。
136	吉井	あなたの評判であるの、
137	北村	評判、あ、
138	吉井	私わからない、僕の評判だっただうなってるんですか。
139	北村	えっ
140	吉井	私は名誉毀損で2回も訴えられているんだわ
141	北村	そら、そらそうと、私の評判、これ、これ、落とそうとしてんでしょ。
142	北村	今言った経過については一番詳しいのは樋口だと思し、当時、
143	吉井	樋口さん、どんな行動やってきたんですか。マネジメントを
144	北村	この事実には樋口さん、間違いありますか。
145	樋口	ないですね。
146	北村	以上です。
147	北村	えいえいと自分が来年再雇用されるかどうかという問題でやられている訳でしょう。
148	吉井	一寸待ってくれ。あのね、僕はこれを出す時にはもう特任教員ということに対しては何も考えてない。
149	北村	あ、そうですか。
150	吉井	一寸待ってくれ、あのね、
151	北村	はい、わかりました。
152	吉井	何も考えていないというところで、一寸、先ほどの言葉のようにぐーと怒らしておいて逆のことを言わせる。これが彼らのやり方なんです。それでね、1つ言いたい。あのね、
153	井形	ということは、先生、
154	吉井	なに、
155	井形	この文章は再度私に何かふる・・・じゃなくてね
156	吉井	あの一ね、
157	井形	じゃなくてね
158	吉井	いや、違うんです。あの、手続を正しく踏んでくれというのが僕の希望なんです。だから、その結果として特任というのを認めないのは結構だということなんです。
159	吉井	だから、ここの内容がね、不適切な内容になっているからそこが問題だよということが私の主張なんです。だから、あなた方投票で拒否すればいいじゃないですか。
160	北村	いーえ、違うでしょ。
161	井形	投票というのは
162	北村	あのね、あなたね、あまりにもね、厳密にね知らないね。私は2年前まで推薦委員をやっていたから、もちろん、推薦委員会ですまくことが運ばなかったケースもあります。そのようなケースでは辞退という様式をとられたこともあります。教授会をとって、理事会へいって理事会で拒否されたケースももちろんありましたけれ
163	吉井	タ、タイム、あの一、
164	北村	いや、違います。

165	吉井	私はこの情報でもって組合と、あのー、そういうところに出そうと思っているからもういいんだわ、議論しないでくれ。くれよ。面倒くさい。
166	北村	今回はね、今回はね、ね、
167	井形	はい、
168	北村	おっしゃっているように不受理になりましたと、
169	井形	はい
170	北村	不受理の理由は書類がととのわなかったからですと、
171	井形	はい、
172	北村	そういうことでしょ。
173	井形	はい、
174	北村	はい。以上です。結構です。
175	井形	はい。
176	吉井	不受理だって、書類がおかしいから僕が言ってんだよ。議論もしてないじゃないですか。
177	井形	だから
178	北村	教授会議題じゃありません。
179	渡辺	学部長、
180	井形	はい
181	渡辺	ちょっと発言させてください。あのー、かつてはね
182	井形	はい
183	渡辺	特任というのは、ま、自動的な雇用延長というようなことで私たちは意識してたんですね。
184	井形	はい
185	北村	そうですね
186	渡辺	ところがある時に
187	井形	はい
188	渡辺	理事会が特任を希望している先生を拒否したと
189	井形	はい
190	渡辺	それで、これは再雇用なんだという認識になりました。
191	北村	そうです。
192	渡辺	その再雇用に関してね、じゃ、再雇用を願い出る時に、あるいは再雇用契約を結ぶためにはどういう手順を踏んでいけばいいのかということに関して、私はどういう規程があるのかというのをね、知らないんですね。
193	井形	はい。
194	渡辺	それで、あのー、経営学部の先生方のなかにも、その、再雇用を希望される先生方がこれからも出てくるかもわかりませんので
195	井形	はい
196	渡辺	経営学部ではどういう手順を踏んで、その、学長が中心になった推薦委員会ですか、
197	井形	はい。あのー
198	渡辺	そこに出すのかというね、
199	井形	はい
200	渡辺	手順をやっぱり、なんか、あの、あのー、規程があればそれをあらためて
201	井形	はい
202	渡辺	示していただく、なければ作っておかないと
203	北村	規程集はあるんやけど
204	渡辺	やっぱり
205	北村	規程集に
206	渡辺	あのー、だからその手順をね
207	井形	はい
208	渡辺	あらためて示していただかないと、経営学部の
209	井形	はい
210	渡辺	あのー、手順がなんかよくわかりにくいところも
211	井形	はい
212	渡辺	イメージとしてあるんですよ

213	井形	はい。あのー、先生ご存知のとおりね、大学には教学内規程集というのがございます。ま、これは私、たまたま役職上持っている訳です。それでここに特任教員の規程ということで第9項目で書いてあるんですね。
214	渡辺	はい
215	井形	ダウンロード、あのー、ネットからダウンロードできますし、これにそった形で今回あのー、ま、吉井先生してないとお怒りですが、やらしていただいたんです。つもりだったんです。
216	吉井	いや、全然なってないよ。内容が滅茶苦茶や
217	渡辺	それと同時にね
218	吉井	そんなこと言うて
219	渡辺	あのー、再雇用のことに関して、ね
220	井形	はい
221	渡辺	そのー、定年を迎えた年に
222	井形	はい
223	渡辺	手続をとるのか、とるとするのはね、
224	井形	はい
225	渡辺	一寸私、あの、納得できないところがあるんですね。少なくとも1年前までにね、
226	井形	はい
227	渡辺	再雇用が出来るとか出来ないとかという見通しがついておかないと
228	井形	はい
229	渡辺	やっぱり、この、再雇用を希望している人にとっては
230	井形	はい
231	渡辺	突然ダメだったということになればね
232	井形	はい
233	渡辺	それはやっぱり問題ではないかなと思いますし、例えば、再雇用しなくなった場合にその先生が再雇用を前提にしてゼミを担当されている場合はどうなるのかという問題もありますのでね、
234	井形	はい
235	渡辺	少なくとも1年ぐらい前には手続を一応完了しておく
236	井形	はい
237	渡辺	というような方法が必要ではないかなと私は思います。
238	井形	はい、ありがとうございます。多分、それが私ではなく、次の、ま、学部執行部への引き継ぎたいというご、ご提案だと思います。もちろん、先生ね、あのー、じゃ、1年前からやれば、あの、必ずこうなっていくか無理なくできるかその辺も難しいところがあると思います。ただ、今回ですね、あの、二宮教授もこういう形でやってきたことは事実でございますね、あのー、ただ普通に、ま、吉井先生に変えてまではちょっとできかねるということでございます。よろしいでしょうか。
239	吉井	ちょっと最後に質問だけ
240	井形	はい
241	吉井	この内容は本当にいいかげんなんですよ。
242	井形	どの内容ですか
243	吉井	この、あなたがた、あなたが私に説明してきた内容は事実とは全くあってないの、そこがね、僕が非常に不満なんです。特任を認めてほしいということでは言っているのではないんです。
244	井形	それー、先生ね、私と先生の間のことで
245	吉井	あなたというけれども、これはあの、みんな教員は教授会に属している仲間なんだわ
246	井形	はい
247	吉井	だからその仲間が情報共有してね、確かに合理的に意思決定されたなということがわかれば僕はね満足します。
248	吉井	ちょっと北村さん、だまってくれ
249	北村	いやいや黙らない
250	吉井	あなたはね、ほんとに私から見たら
251	北村	自分の主張だけが正しいと思って言っているんだよ。
252	吉井	あなたがそうでしょう。
253	北村	2部の科目はずしなんていうことをえんえんと言ってんだけど、この委員会、その調査委員会で言われたのは
254	吉井	あなたは、委
255	北村	あなたの合意ということが問題ではなくて教授会で担当いただかないということが決まったという議事録が大事なんだというのが当時の学長の言い方でした。

256	北村	で、それともう1つ、私、1回づつづつ申し上げておこうと思うけれど、あなたは私と樋口の執行部の時に私はくっきりと覚えている。皆さんもあなたも覚えていると思うけれど、 学生のカンニング問題で不正処分を不正処分の不正取引をしたと言っているらしいし、前も言ったね。
257	吉井	書類がちゃんとあるじゃないですか。門田(モンデン)さんの、
258	北村	門田(モンデン)さん、あの時あなたはカドタと言ったけれど
259	吉井	よう覚えてますね、私はその書類を見ながら言うたんですよ。
260	北村	その書類を見せてください。私と樋口がどうどういう意味で不正処理をしましたか。
261	北村	今に到るも学部教授会で学生の処分という重要な問題が審議される切っ掛けになったのはあの事件ですよ。
262	北村	私は、あの、非常に優秀な女子学生だったけれど、あ、この子がカンニングするのかと疑問に思ったし、本当にこれを処分し、この子の学歴のなかに処分されたというのが残る、本当なのかなと思ってそれで教授会で実質的審議をすることを指示しました。
263	吉井	門
264	北村	そして最後は重要事項ですから皆さんの賛否をとってやりました。そして、門田学生委員長もここへ来てもらって状況説明をし、やりました。
265	北村	あらゆる手順を踏んでその学生は処分されずに終わりました。
266	北村	それ以降も、この数年間の直ぐに処分したいという傾向の人たちがいるけれど1つ1つの処分案件についてここで実態審査をしてやるんだというのはその事件からなんです。
267	北村	あるいはこの前の教授会でまるでちらっと言うて私の名誉を毀損するかのごとく私のゼミ生が大阪府庁の放火をした
268	吉井	ナイフを振り回していたのは事実ですよ
269	北村	事実でしたが、あれも、もう退学願いを出して退学した人を退学した学生に追っかけるように処分できるのかというのが法人理事会でも大議論でした。
270	吉井	重要なのは女子学生が逃げ出したということだよ。
271	北村	理事にありましたけれど
272	吉井	予防保全ができなかったということだよ。
273	吉井	ゼミにもっと力をいれていたら予防保全できるということですよ。
274	北村	それでも経済学部の学生でしたから経済学部は処分したんです。
275	北村	我々が学生が学籍から外れてなんで処分できるんですかというのがこの間の我々の大麻問題やなんかにかかわる処分の問題の大問題であったと、ご存知でしょ。そこからはじまっていて実質的に学生の処分案件についての審査をすることが始まったのは樋口さんが副学部長で私が学部長の話です。
276	北村	私は当然自分がなっとく納得して処分を決定しなければ納得できないのでそういう手順をとりました。
277	北村	それを我々が処分隠しをしたというふうにあなたはえんえんと言っているんでしょう。
278	吉井	門田さん、門田さんがあなたの後、いいですか
279	北村	私の名誉がなんだということよりも学部の運営を優先しているんですよ。
280	北村	樋口さん、この点についても確認してください。そういうことでしょう。
281	樋口	賛成いたします。
282	吉井	門田さんが、ちょっと聞いてくれ、門田さんがあなたの説明の後で、ね、私に対してお前の学部はどんな学部だというふうに言っていますが、だから、門田さんにもう一度聞いてみなさいよ。
283	井形	はい。わかりました。
284	北村	聞いてみます。
285	井形	先生、あの一、ま、ちょっとこれ
286	吉井	ま、ま、井形さんね、あの一、この後はもうこの教授会から離れよう。それでね、
287	井形	離れるとはどういうことですか
288	吉井	それでね、私は、けいえい、これから組合とかに出そうと思っていますので
289	井形	何を出すんですか
290	吉井	この書類を出します。
291	吉井	というのはこの書類というのは
292	井形	先生、
293	吉井	いうてみると適切な判断ではないというのが私の判断ですので、
294	吉井	私の自己主張としてやらしてもらいます。もう議論止め
295	井形	あの一2ページ目書いている文章、これは私の全部私文書のやりとりですよ。
296	吉井	私文書であっても、要はマネージャーとしての仕事じゃないですか。
297	井形	いいですか、いや、出されても結構ですよ、
298	吉井	あなたがマネージャーとしてやっている、そういう仕事なんだからね、
299	吉井	だから、一貫してどういうふうなやりとりをしているかということがわからないといけないからつけてあるんですよ。

300	北村	あのね、あの、何をされても自由だし、
301	井形	ま、ま、先生聞いてください。
302	北村	当然本人が問われるわけだから、
303	井形	はい
304	北村	それは何をされてもそ、それを止めることはできないですよ。
305	井形	はい
306	北村	でもね、一応この教授会を離れてこの問題に決着がついたら、この間二宮さんと私があの一、とてもあの一、こ、あの、抑圧をしたという趣旨の文書が配られていると聞いたので、ちゃんと応答しましょうと我々も決断しておりますのでこの問題が決着がついたうえで個人の問題としていいわけですね。
307	井形	はい
308	北村	二宮さん、そういうことですね。
309	二宮	はい
310	北村	はい、じゃ、結構です。
311	山田	学部長
312	井形	はい
313	山田	あの、さっきあの書類上の不備でということでした。 その書類上の不備という内容をちょっと説明しておいていただけませんか。
314	井形	あの一、ま、2人のね、あの一、ちょっとこれ違うかもしれないんですがこの特任教員事例というところに実は書いてございますね。
315	山田	この文書ですか
316	井形	え、はいはい、そうです。
317	山田	はい
318	井形	でね、あの、山田先生はどういうふうになんかちょっと今ご質問されているかちょっと僕わかりかねるんです。
319	井形	山田先生自身はやっぱり
320	山田	不受理になった理由を
321	井形	はい
322	山田	あの、皆さんに理解しておいていただければいいと思います。
323	井形	はい、そうです。はい、あの、簡単に申し上げますと、ま、ここに書いておるとおりね、あの、僕があの一、再雇用するか否かという、今、実は、これ、ま、大変ご本人前にして言にくいんですが
324	吉井	いやいいですよ。
325	井形	よろしいですか
326	吉井	ええ、全然気にしていません。
327	井形	あの、ご本人にはちょっと表現悪いですけどもね、非常勤の先生、次年度からこの先生にこの科目をやってもらおうかという、それに近いニュアンスのもので理解してくださいね。
328	井形	よろしいですか、今、ちょっと、あの、
329	山田	いや、書類上の不備だから何か書類に不備があってということなんだろうからと聞いているんですけどね、
330	北村	はいしのべは聞いてんじやないの
331	山田	ん？
332	北村	担当科目についての学部長が出す書類ができあがらなかったんだと言っているじゃないですか。
333	山田	や、それ、どうできあがらなかったのかです。
334	山田	できあがるということはどういう意味なんですか。
335	北村	学部長が判断して出してくれる書類ができあがらなかったということでしょう。
336	井形	そうです。
337	山田	その内容は何なんですか。
338	井形	え、内容というのはどういうことで、
339	山田	だから、何ができあがらなかったのか、開かなかったのか。
340	井形	ええ、吉井先生が、ま、特任にもしなられてもたれる科目が不適合だと私が判断したからです。
341	山田	科目が不適合で
342	井形	そうです。
343	吉井	あの一、書類上の不備って何の不備？
344	北村	やめようよ
345	吉井	いや、これは極めて大事なことだよ。
346	北村	いいはつたらしいじゃないの、
347	吉井	あの、教授会メンバーにとって
348	北村	教授会の議題が出てきてないんですよ。

349	吉井	ちょっとあなたさ、だまっつってよ。
350	北村	あなた黙ってなさいよ、あなた、外に出るべきですよ。自分のことについて
351	井形	あの、もつと言いますとね、
352	北村	これが採用人事なんでしょう
353	井形	あの一、
354	北村	あなた、自分のことしか考えてないじゃないの
355	吉井	おれ、自分のことやってるん違うんだわ
356	井形	あの、ちょっと山田先生、ね
357	吉井	おれはどうでもいいんだわ
358	井形	カリキュラム委員会でもってね、こういうこと、例えばこれだけこう議題、教授会で議題ございますね、んで、皆さん、私さま、皆さん、紹介、紹介というか報告して皆さんに質疑してもらっていますね、んで、これにはちょっと私と山田先生とで他の方除いて2人で協議しなければいけないことがよくありますね。
359	山田	ええ、よくありますね
360	井形	ありますね、んで、この件を今、吉井先生はこういう文書で出されている訳ですよ。
361	井形	んで、私からしたら本来こういう文書が出てね、それからあの一、 特任教員採用の理由についてうんぬんでここで議論して皆さんに聞いてやる問題ではないと私は理解している訳です。
362	井形	よろしいですか。
363	山田	あの、特任教員にね申請するというのはうちの学校の手続にある訳ですから
364	井形	はい
365	山田	それが、その、所定の手続を経て教授会にもどってきますよね、
366	井形	はいはいはい
367	山田	そこで了解するかどうかで教授会で議論される
368	井形	はいはい、
369	山田	それはわかるんですよ、
370	井形	はいはい、
371	山田	で、その前に
372	井形	はい
373	山田	あの、学部で止まるというのが手続の進め方として
374	井形	はい
375	山田	どうなるのか、
376	井形	はい
377	山田	あの一、いろんな人が審査する場に
378	井形	えーと、山田先生、ご存知ですよ、この規程について
379	山田	ええ、知っていますよ。
380	井形	知ってますね、そこでいいですよ、
381	山田	ええ
382	井形	あの、1つ、先生方よろしいですか。今日、時間、かなり遅い時間がかかりますよ。
383	北村	--- <認識不可>
384	太田	研究会がずっと長びいている --- <認識不可>
385	北村	進行してください。もう結論でたんだから
386	井形	あの、特任教員任用規程に即してやっています、それは、よろしいですか。 で、そこで言うならば今日のような文書で再度特任教員が正しい正しくない、 これまで議論というのは本来教授会と議題課目でもないし取り上げられない
387	山田	いや、なくっても疑問が出、意見が出れば、それは議論したらいい訳で
388	井形	んん、だから、わたし、私はもう常にもう、あの、吉井先生に1時間半協議したうえで
389	山田	それは、僕は僕は単純なことを聞いているんです。書類上の不備ってどういう不備があったのか、ということで
390	北村	あなた、聞いてんじやん
391	井形	書類上の不備
392	北村	あなた執行部でしょ、(注:執行部は井形、池島、吉野の3名。 したがって、山田先生が学長補佐という立場、学長執行部の一人として、知っているでしょという意味かもしれない)
393	山田	そうですよ
394	井形	書類上の不備ってさっき言いましたよね、特任教員としてこの3年やっていただく計画書が認めがたいということが不備ですよ。不備っていうのは何も字が間違ったとか数字が間違った意味じゃないんですね。
395	井形	ここで不備っていう名詞を使っていますが、

396	北村	もうそれだけでいいじゃん。進行してください。
397	井形	よろしいですか
398	北村	はい、後、もう私と二宮さんと、あの一、この人の個人的な問題としてあずからしてください。
399	井形	はい
400	池野	いやいや、ちょっとだけ、えー、学部長が、その、吉井さんの出された書類に対して、えー、学部長がこれでは再雇用のクリアは出来ないと判断されて、
401	井形	はい
402	池野	だから書類が不備だと、あの、判断されたと、
403	井形	あの一、もう少し正確に言いますとね、例えば、私も先生も山田先生も次年度授業科目というの一応カリキュラム委員会の了解を得て出していますね。これ、ご理解いただけますよね。
404	井形	我々の次年度、再来年の科目については
405	山田	科目をどうするかは教授会で決めることです。
406	井形	んん、教授会で決まる。その前にカリキュラム委員会の審議を経て教授会で了承されていますよね。
407	山田	カリキュラム委員会で協議しながら教授会で決めるんです。
408	井形	で、ということですね、今度、特任教員になる方は学部長との協議というのはこれカリキュラム委員会が加わる訳ですよ。私の判断は。
409	井形	言っている意味がわかりますか。私が例えば仮にですよ。山田先生が特任になる時にこういう科目があって、ああ、いいですよ。このまま推薦委員会にもってきて、そして教授会、という訳には行かないとご理解いただけますか。
410	井形	吉井先生だけではなくて、我々全員の科目がそうです。
411	井形	そこ、どうですか。
412	北村	それはね、あなたがね、10月、最初の時に、そういうふうにやりますとおっしゃったでしょ。 (注:9月28日の教授会で、カリキュラム委員会の承認が必要、学部長が推薦を決める、と説明したという意味)
413	井形	はい。そうなんです。やっているつもりなんです。
414	井形	次にまいりますよ。あの一、
415	井形	一寸、ま、これ、私の問題だけど、一寸私の最近の経営学、一寸私の --- <認識不可> --- 申し訳ない。ただしね、これ、私のいたれるところなんです、それを含めて皆さんがですね、次年度以降、あの一、吉井先生を除きますが、皆さんの科目は次年度以降これだけやっていただきたいというのを私、ま、私と協議ではなくてカリキュラム委員会と教授会で了解されている訳ですね。
416	北村	あのね、プラスしてね、言えばね、
417	井形	はい
418	北村	で悪いけれど、その規程作ったのも私が原案作ったんだし、それはさっきから渡辺さんがおっしゃるように、本当は、あの、定年延長でなかったのかと
419	井形	はい
420	北村	言うね、ところに理事会が拒否した事件があって、今理事会と理事会が教員の事件にどうい関与の仕方をするのかというのがこの2月3日にも特別招聘教授問題でぐんと議論がありましたよね。
421	北村	教授会審議を飛び越えて教授会に何も諮らずに理事会と学長だけが判断して教員を作ろうという話がありましたね。つい、この間あの話ですよ、覚えてますか。ね、黒田さんがあの一憤慨し、三島くんがテーブルに書類をたたきつけて怒ってましたよ。覚えてますか。
422	吉井	この経営学部を変えるためには大事なことです。
423	北村	今、理事会は教員採用、拒否権は明確に持っているでしょうね。 それは何でだと、事の結果の中でそうなったんだと、いうので、主張し、最後まで裁判その方やらなかった訳じゃないですか。そういう経過があった。 それで、それはやられたほうは当然再雇用だという性格をもっとはっきりさせようというふうになって確定し、その規程ができました。 この間、再雇用だということは非常に明快になっているし、任期制の先生の更新も再雇用だということをやっている訳です。これはもう間違いない事実です。
424	北村	それをもう一度考え直そうよ、あるいは、今、渡辺さんが今おっしゃっている手続をもうちょっと早めにやろうよというのは私も否認には穏やかな提案だと思いますが現実には今はそういうことです。
425	井形	はい
426	北村	お願いします。進行してください。
427	井形	はい、わかりました。
428	北村	後は、あの一
429	山田	説明続けていただいたら
430	井形	え、何を続けてですか
431	山田	いや、途中で終わったでしょ、
432	井形	はい

433	山田	あなたと北村さんとの ---、最後まで続けていただいたらいいじゃないですか。
434	井形	え、な、な、何を続けるんですか
435	山田	説明の途中だったじゃないですか
436	井形	何の
437	池野	ちょっともうひとついいですか、
438	池野	ちょっと思い出しました。
439	山田	書類上の不備が何なんですかということです。
440	井形	んん、ですから、カリキュラム委員会のご判断と私の判断で特任を決めるというやつには認めがたいという判断です。
441	井形	で、よろしいですか。
442	池野	で、カリキュラム委員会と学部長の判断がどういふもんだったから認めなかったという報告がほしいんです。
443	井形	今さしゆつしたのがそれなんですよ。
444	池野	だから、あの一、それをもう一度理解できないので教えてくださいということです。
445	井形	理解してくれてるのに、ま、他にも、ま、吉井先生のメールにも書いていますからね、私は、あの、少なくとも理解 --- 吉井先生の問題 --- <認識不可> ---
446	井形	ちょっと吉井先生、よろしいですか。
447	吉井	いいんだけど
448	井形	あの一、一寸余計な事を言いますよ。
449	井形	あの一、
450	吉井	内容がものすごい無茶苦茶
451	井形	**の方の特任を決めるということは、先生、この学部の将来のあり方を決めると思うんですよ。
452	井形	でね、何が言いたいかということこういう事です。
453	井形	あの一、この教授会に来たり来なかつたりして、好きなことを言ったりそういったことをされているけれども、してもしなくても同じ扱いで ずーといれるというほうがむしろ私は異常であるかなと思うんですね。
454	井形	んで、これは吉井先生は外れますよ。ただし、先生のように、こうやって、ま、非常にこういう形で出されてね、ひどく利用されたり、こちらのおれまがつたり、ね、
455	吉井	あの、事実だったら全然文句言わないよ。
456	井形	は
457	吉井	事実じゃないから文句を言っているんです。
458	井形	事実です。これは、
459	吉井	あの、経営情報学部が改組なったように、あんな、事実か、
460	池野	教授会に吉井さんが
461	井形	はい
462	池野	来たり来れなかつたりしたり、
463	井形	はい
464	池野	あるいは教授会で好きなことを
465	井形	はい、はい、今、ちょっと、吉井先生とは言っていないです。
466	池野	いやいや、あの一、そう聞こえましたが
467	北村	もう、あの一、あの一、2人で話ついたらんだからそれでいいし、
468	井形	はい
469	井形	話がついたつもり
470	池野	だから、今の判断の基準がね、カリキュラム委員会と学部長の判断のうえで吉井さんを特任を書類の不備であるということにした理由がね、
471	井形	はい
472	池野	今、おっしゃったように、例えば教授会に来なかつたり
473	井形	一寸先生、話の、ごめんなさい、一寸、吉井先生のことを言ったわけじゃなくて。
474	吉井	おれ、一寸、席をはずしたるか、
475	井形	え、
476	吉井	そのほうがいいか。
477	井形	何で
478	吉井	席外したるか
479	井形	いや、席外してその間何をするんですか。
480	池野	いやいや一寸待ってください。
481	北村	その話はね、その話はね、私も参加する権利があるから言わしていただければ、

482	北村	山田文明氏がね、中国で捕まった時に緊急教授会を開いて、覚えてますか、覚えてます。
483	池野	ああ、私、覚えてます。いやー、あの一
484	北村	その時に、しえん支援決議をしようと
485	池野	はい
486	北村	何で私がある時に、その時も学部長だったけれど何で支援決議をしようかというたら、外国の法律を犯して捕まったんだから、これ、ひょっとしたら学内で処分されるんじゃないかと思ったからですよ。
487	池野	いや、だから
488	北村	だから、その時に何が争点になったか、私、クッキリ覚えているんだけど、ね、覚えてますね、あなた覚えてますね
489	池野	はい、私は覚えてます。
490	北村	その時は、ね、唯一、山田支援決議に反対されたのはあなただったんですよ。
491	池野	はい
492	北村	1対なになに、で、それで教授会決議とはしないでおうと、あえてなくて、あの、あの一、多数の意見がこうでしたということで決めましょう。その時の議論は何だったのかというと、あの、ある種標準化して、形式化してね、その決議をね、こういう場合はどうかしても支援するんだとか支援しないんだとかいうことを決めるべきだという議論をされたように思うんだけど、そうじゃなくてやっぱし個別のケースで個別の手順というのものもあるし、その個別の手順を包みこむような規程というのがあってその規程の枠のなかで運ばれているということなんですよ。
493	池野	それは私が反対したのは要するに山田さんだから出すのか
494	北村	そうそう
495	池野	池野だったらやらないのか、そういうのを個別でやるんじゃないしに
496	北村	ほー
497	池野	経大の教員の仲間であるというかぎりは
498	北村	そう
499	池野	あの一、本人を支援するということはやるべきである。
500	北村	だから、特任
501	池野	ただ、ただ
502	北村	特任教員としてね、ふさわしいかどうかというのはそれこそみんなの意思の総合でなるのだから
503	池野	いや、みんなの意思の総合をどのように決めるかという
504	北村	みんなの意思の第1段階は推薦委員会じゃないですか。推薦委員会から
505	池野	推薦委員会に行くまでに不備であるで止まっているんですよ
506	北村	推薦委員会に出すべき書類の中心部分を学部長がつくる訳でしょ。
507	池野	だから、だから、それを
508	北村	規程を、規程を読まれました、
509	池野	読んでますよ
510	北村	ね、あれね、自分がね、書類出すとしたらおかしいでしょ、私、あの規程、つくる時も考えたんですよ。
511	北村	自分がこんな科目持ちたいという訳にいかないな、と。
512	北村	当たり前だけれど
513	北村	そういうことですよ。
514	北村	だから学部長が
515	吉井	北村さん、
516	北村	は、
517	吉井	そんなまずい説明でね、
518	北村	は、
519	吉井	その一、学部長がさ、
520	北村	は
521	吉井	書類をつくるの、私、あの、情けないわ、 (注:正規の規程では、学部長が作成する書類は明記されていない。)
522	北村	あなた
523	吉井	でもね、1つ言えるのはね、
524	北村	言っとくけど、
525	吉井	北村さんが書いたんじゃないの、 (注:5月11日カリキュラム委員会で、執行部で処理可能と打合せ、10月12日にその詳細を決めたことを指す)
526	北村	それ、あんた
527	吉井	彼一生懸命読んでたよ。 (注:10月15日、私に特任辞退を迫った時に、10月12日に決めた6つの理由を書いた紙をみていたことを指す)
528	北村	それはあなたの評価だし、あなたの評価だし、私のあなたに対する評価もあるし、ね、

529	吉井	僕は評価はいいんだけど、
530	北村	採用する時に
531	吉井	あの、一番重要なのは学生のことを考えて評価してほしいんだわ。
532	北村	考えてますよ、あなたは私をかんが、学生を考えて
533	吉井	おれはいつも学生と大学しか考えてないね、
534	北村	いっているだけの話であってね、私は学生のために働いていると思いますよ。
535	吉井	そうであるならば、放火犯人なんか出ないわ
536	北村	結構です。
537	井形	はい
538	北村	はい、進行してください。
539	井形	はい
540	井形	ということで、あのー、これは回収してください。回収させてください。よろしいですか。
541	井形	回収できない、返せないという方は手をあげてください。
542	山田	ん
543	井形	返せない、
544	山田	あの、これは読んでからに、
545	井形	読んでからですね、
546	山田	読ませてもらいます。
547	井形	あの、本日中には返していただけますか。
548	山田	いや、読んで
549	北村	聞いてないのですか、聞いてないのですか、私、自分に係わるとこだけ、あの、裏の2ページですか、9ページと10ページだけくださいね、
550	井形	はい。
551	北村	私とあの、樋口氏に係わる、あの、問題が書いていますから、
552	井形	私も1ページめはちょっと私に係わるところですから、
553	吉井	ま、全部持っとなんか、
554	井形	そしたら、
555	吉井	なんぼでも配布するわ、ほんとにもう、
556	井形	よろしいですか、
557	井形	あのー、これ、 文書というのは非常に怖いものです。 あのー、思わずなにか、はい、はい、
558	井形	はい、そしたら一応、あのー、 特任教員の推薦委員会 に関してはふじゆ不受理ということで この問題については決着させていただきます。 ありがとうございました。